

## 地域との交流を通してコミュニケーションの対象の拡がりをねらった実践例 〈3年生の取り組み〉

### (1) コミュニケーションの実態

本学級の生徒は、男子4名、女子4名、計8名である。素直に指示を受け止めて、与えられた活動特に動きを伴う作業的活動には、集中して根気よく取り組める。ことばによる指示の理解は個人差があり、個別の配慮がいるが、場が設定されたり、経験がある内容には、見通しが持てるため、ある程度自信を持った言動ができる。また、比較的身だしなみを自分で整えようとして清潔に心がける生徒が多い。広域から通学してくるために地域との関わりが薄く、学校や家庭の限られた人との関わりに終始してしまいがちであるが、学級としてのまとまりはあり、活動の中で協力しようとか助け合おうといった行動が自然にできる。

### (2) ねらい

- 自分たちができることを奉仕活動ですること、自分たちも社会に参加して役立っているという自信を持たせ、積極的に社会参加をしていこうという意欲や自信を育てる。
- 地域の人との交流を通して、互いに関わり合うことの喜びを感じさせ、進んで人と関わりたいという意欲を育てる。
- 地域の人との交流を通して、コミュニケーションの場を少しでも拡げることで、やりとりの力を高める。

### (3) 指導方針と手立て

生徒たちの日常生活での人との関わりは学校や家庭に限定されている。コミュニケーションの拡がりを求めるときに、自分たちの力で、人間関係を拡げたり、いろいろな人と関わる経験をするのは難しい。

そこで、指導者が、地域や施設との交流を意図的に単元として組み、学校外の実社会の大人との関わりを経験をさせることで、生徒たちの目を学校外（地域社会や身近な施設）にむけ、更に社会参加に意識を向けることができると考えた。

学校のように設定された場でないため、実態に応じた対応が必ずしも期待できないので、その場で臨機応変に関わる力を高めることができる。しかし、その際にまったく拠り所がないのではなく、奉仕活動という作業を通してのあいさつ、お礼など基本的パターンを事前に学習して、現場で生かし、望ましい関わり方を学習することができる。

定期的な活動による学習の積み上げで、自信と見通しを持たせ、自主的に活動させたり、活動の対象となる場や相手との交流を通して、人間関係を少しずつ築いていくことも大切にしたい。

### (4) 指導計画

#### 奉仕活動の年間計画

	4月	5月～9月	10月	11月	12月～2月	3月
2年	奉仕活動 (清掃)	施設への清掃奉仕 *若草学園(精神)		堀越地区への	牛乳パックの	

生	対象施設の 選定・下見	薄弱児通園施設) * 敬生寮 (養護老 人ホーム)		牛乳パックの 回収の計画、 協力要請	回収	堀越地区へ の回収報告
3 年 生	施設への清 掃奉仕 * 若草学園 * 敬生寮	堀越地区 牛乳パックの回収	喫茶 「しらはま」 下見・計画	喫茶 「しらはま」		

### (5) 指導の実際

#### ① 施設への清掃奉仕・堀越地区での牛乳パックの回収

昨年に引き続き実施している。積み重ねにより、自分たちで準備から後片付けまでしている。昨年から楽しく活動してきた生徒たちだが、自分たちへの理解が深まってきていることで、人と関わることの喜びや責任を感じてきている。やりとりの面では、相手の聞いておられることがなかなか分からなくてとまどったりする場面もまだあり、相手が話されることを聞き取ることや自分の意思を伝えることは、今後も指導を積み重ねていかななくてはならないと考えている。



施設での清掃奉仕

#### ② 喫茶「しらはま」

障害者福祉センターあさひ園の要請を受け、しらはま交流センターであさひ園をはじめとした障害者福祉センターの方たちを対象にコーヒー券と引き替えにコーヒーを入れて出すという活動を11月から実施している。

ねらい

- ・分業という形を取りながら、学級のみんなの力で活動したという経験をするすることで、自信を持つことができる。
- ・自分から働きかけたり、相手の要求や思いに応えることでやりとりの力を高める。

### 実際の指導

#### 〈事前〉

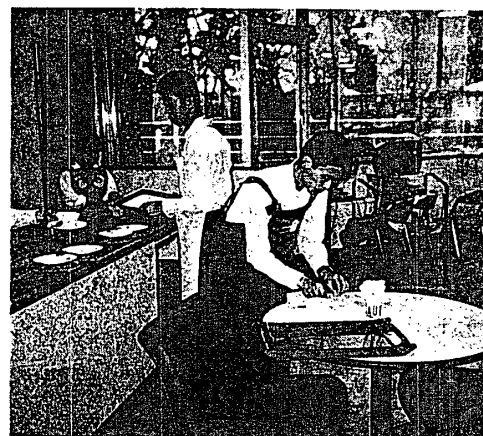
様子・指導の内容	手立て	生徒の変容
・喫茶をするということがどういうことか知っていたのはJ子とK子の二人だった。	・喫茶店がどのようなものか発表させたり、指導者が話すことで意欲を高めた。 ・「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」ということを話し、練習した。	・やってみたいという生徒が分からないというH子とI子を除き4人に増えた。 ・使ったことがあることばなので、言うことができるようになった。

< 1回目 >

<p>○仕事の内容を説明し、希望を言わせ、分担した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• コーヒーを入れる。(K子) 用具の操作に一生懸命で、まわりに気を配る余裕がなかった。</li> <li>• お客さんを案内し、「どうぞ」と出す。(Q男) 案内するタイミングが分からなかったり、適当な受け答えができなかった。</li> <li>• 食器を片付ける。(J子)</li> <li>• 食器を洗う。(H子)</li> <li>• ふきんでふき、運ぶ。(I子)</li> </ul> <p>○お客さんが来られた時に、「おはようございます。いらっしゃいませ。」「ありがとうございました。」が言えなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• お客さんの待ち時間が長いことを話し、どうしたらよいか考えるように話した。</li> <li>• 指導者が合図を出し、タイミングをつかませるようにした。</li> <li>• 車椅子の方が来られたときに座りやすいように椅子を動かすように話し実際にしてみせた。</li> <li>• まず、指導者が大きな声でいい、そのまねをさせるようにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1回目後の反省で（お客さんがおられない時に）1度に10杯ずつわかすようにすれば、待ち時間が短くなることに気づいた。</li> <li>• まだ、一人ではできなかったが、指導者が合図を出せばうまく言えるようになった。</li> <li>• 1回目後の反省の時に車椅子の方が来られたときには、座りやすいように椅子を動かした方がいいことに気づいた。</li> <li>• 次第に指導者がタイミングを図らなくても、玄関の自動ドアが開いた時点であいさつをするようになってきた。</li> </ul>
--	---	---

K子は、2回目の活動では、1回目反省を元に10杯ずつコーヒーを入れており、1回目に比べ、待ち時間が少なくなってきた。R男は、自分で台ふきを持ってきており、お客さんが席を立たれた後で、さっと片付けをすることができた。回数を重ねることで、反省を生かしながら、試行錯誤を繰り返している。

今までの奉仕活動と違い、相手の行動によってこちらの対応を決めていかなくてはいけないという難しさがあり、今はまだ、指導者が援助している段階であるが、次第に手を放していき、生徒たちだけでできるようにしていきたいと考える。



喫茶「しらはま」での様子

(6) 考察と今後の課題

コミュニケーションの拡がりを求めたこれらの実践を通して、生徒たちは、場と機会が与えられれば、最初は難しくても、試行錯誤を繰り返しながら、次第に人と関わりあっていくことができるものであると感じさせられた。

今回は指導者が場を設定し、対象を拡げたのであるが、今後、これらの活動を通して社会に向きつある目を自分から進んで社会参加したり、人と関わり合ったりするような意欲にまで高めていきたいと考えている。

(遠藤)